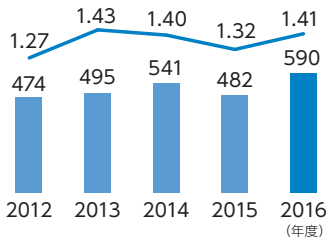


環境

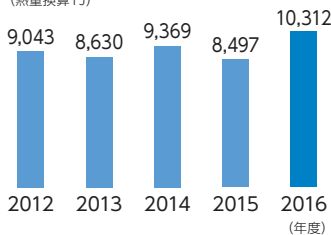


環境経営の詳細は日立化成ウェブサイト▶日立化成について▶CSR情報▶環境報告よりご覧いただけます。

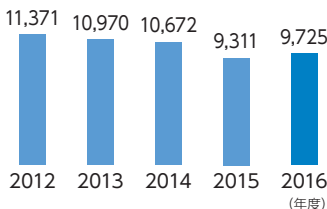
■ 温室効果ガス排出量/
温室効果ガス排出量生産高原単位
(千トン-CO₂e) 生産高原単位(トン-CO₂e/百万円)



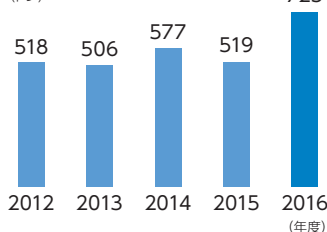
■ エネルギー使用量
(熱量換算TJ)



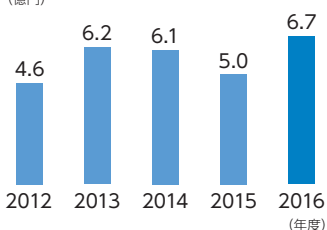
■ 水資源投入量
(千m³)



■ VOC排出量
(トン)



■ 環境投資額
(億円)



環境経営の実践

2016年度の取り組み

温室効果ガスの削減

日立化成は、「グループ環境・CSR会議」で環境問題に伴う事業リスクや機会を含めて議論し、グローバルな方針を決定しています。2018中期経営計画でCO₂排出量に関する数値目標を策定して温室効果ガス排出量の削減にグループ全体が一丸となって取り組んでいます。また、「カーボンマネジメント戦略」を通じて、CO₂の排出による自社への財務的インパクトを評価して経営の視点からマネジメントを行っています。2016年度は重点的に管理する主要製造サイトの対象範囲を拡大したこともあり、温室効果ガス排出量は590千トン-CO₂e、原単位は1.41トン-CO₂e/百万円となりました。

サステナブルエンジニアリングの推進

日立化成は、10年戦略の実現価値である「サステナブル環境実現」をめざし、基盤技術の複合・融合を通じてサステナブルエンジニアリングを推進しています。その中で、お客さまのニーズに対応しながら、バリューチェーンの環境負荷低減に貢献できる新製品・新事業を創出しています。2016年度の環境配慮製品売上収益比率は68.9%となりました。

水資源の使用削減

日立化成は、水リスクの高い地域を中心に水使用量の削減に取り組んでいます。2016年度は、主要製造サイトの水投入量が9,725千m³となり、2015年度と比べて若干増えましたが、原単位の改善率は30.3%となり目標を達成できました。また、各地域における、現在および将来の水リスクの大きさに関する調査を行いました。この結果は今後の水資源管理に反映させていきます。

2017年度の計画

2016-2018環境行動計画では、「環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス」「次世代製品とサービスの提供」「環境経営の推進」の категорияで合計12項目の行動計画を策定しています。2017年度は、2016年度の結果を踏まえ、バリューチェーン全体での環境負荷低減をめざして、さらなる改善を進めていきます。

2016-2018環境行動計画(主要項目の一部)

カテゴリー	項目	行動指標	行動内容	2016年度			2017年度	2018年度
				目標	実績	評価	目標	目標
環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス	地球温暖化の防止	エネルギー使用量原単位改善率(基準年度2005年度)	エネルギー利用の効率化を進め、CO ₂ 排出量削減や排出量抑制活動を推進することで地球温暖化対策に貢献する	13.7%	13.4%	未達	14.2%	15.8%
	資源の有効活用	水使用量原単位改善率(基準年度2005年度)	世界各地で懸念される水問題の解決に向けて、水リスクマネジメントを強化し水利用率を推進する	27.7%	30.3%	達成	26.6%	28.5%
	化学物質の管理	化学物質大気排出原単位改善率(基準年度2006年度)	プロセス改善や代替化により人体や生態系に影響をおよぼすVOCなどの化学物質大気排出量を削減する	45.1%	43.9%	未達	41.6%	42.6%

注: 2016-2018環境行動計画の全項目は、<http://www.hitachi-chem.co.jp/japanese/csr/stakeholder/environment/plan-3rd.html>よりご参照ください。